

～今年、第 98 回箱根駅伝の健闘状況（一考察）～

選手の健闘と同期会の皆さん等の応援で今年の箱根駅伝は総合 **6 位**、10 年振りのシード権獲得で 2 年後の第 100 回箱根駅伝“優勝”への希望を与えて呉れてとても嬉しく思っております。

今年の戦況について色々分析していますがその中で私が考えた方程式で算出しました(岸式)「**健闘タイム**」(岸式)「**想定タイム**」等について記述しました。

1. 母校、“優勝”青山学院大学選手の健闘状況

1) 母校選手の「健闘タイム」へのコメント

- 1 区…**吉居選手**（想定タイムが 1 区出場選手 20 名中 **5 位**）の「**健闘タイム**」は **22 秒**と想定タイム以上の好タイム、1 区をずっとトップ走行の圧巻の走りで**区間賞（区間新記録）**を獲得と十二分健闘された。
- 2 区…**手島選手**は「**健闘タイム**」**59 秒**と健闘されたが駅伝順位を **1 位**→**11 位**へと下げてしまったのは外国籍選手 5 名が出場等各大学のエースが走ると言われている 2 区で**想定タイム**が同区 **18 位**、区間順位 **15 位**に**約 1 分**も健闘しましたが同区を走る選手としては走力が足らなかった。
- 3 区…**三浦選手**は当日の変更で出場、駅伝順位を **11 位**→**7 位**に**上げる**も「**健闘タイム**」が**▲27 秒**なのは**想定タイム**は同区 **4 位**ですが区間順位 **7 位**にてもっと頑張れる力を出し切れなかった。（走行距離があと 1Km 長ければ…）
- 10 区…**井上選手**（想定タイム同区 **5 位**）の「**健闘タイム**」は**▲98 秒**、区間順位 **17 位**で駅伝順位を **3 位**→**6 位**へと下げてしまったのは、**当日の変更で出場**、駅伝主将の 4 年生ですが箱根駅伝**初出場**、最終区間を走行、走行中に脚がつる等プレッシャーで持てる力を十分に発揮出来なかった。

（「**健闘タイム**」が**±0 秒**でしたら駅伝順位は **3 位**→**2 位**でした…）

他区間のコメントは省略しますが上記 4 区間について駅伝部 OB でなく、駅伝に素人の私はその様に分析、思料しております。

6 位 中央大学（駅伝タイム：10 時間 55 分 44 秒）

区間	1 区	2	3	4	5	6	7	8	9	10 区	平均
選手	吉居	手島	*三浦	中野	阿部	若林	居田	*中澤	湯浅	*井上	—
学年	2 年	4	4	2	1	3	2	3	2	4	2.7 年
健闘タイム	22 秒	59	▲27	62	▲56	▲33	▲101	58	54	▲98	▲60 秒
区間順位	1 位	15	7	5	6	5	18	3	3	17	8.0 位
駅伝順位	1 位	1→11	11→7	7→8	8→6	6→5	5→7	7→3	3→3	3→6	5.7 位
高校順位	1～10 位	26～50	1～10	11～25	51～100	26～50	26～50	51～100	101～	1～10	38.0 位

※ 選手名赤字：区間賞 *：当日の変更で出場 高校順位：順位でなく 1～10 位等のランクで表示

“優勝”青山学院大学（駅伝タイム：10 時間 43 分 42 秒）

区間	1 区	2	3	4	5	6	7	8	9	10 区	平均
選手	*志貴	近藤	太田	*飯田	若林	高橋	*岸本	*佐藤	中村	中倉	—
学年	2 年	3	1	4	1	4	3	2	3	3	2.6 年
健闘タイム	79 秒	22	97	30	▲8	▲15	58	49	85	73	計 470 秒
区間順位	5 位	7	2	3	3	8	1	2	1	1	3.3 位
駅伝順位	5 位	5→2	2→1	1→1	1→1	1→1	1→1	1→1	1→1	1→1	1.5 位
高校順位	51～100 位	11～25	1～10	11～25	11～25	26～50	11～25	51～100	26～50	11～25	29.6 位

2. 母校と“優勝”青山学院大学との戦況比較

1) 高校順位、区間順位、駅伝順位、区間賞獲得選手数で比較

(1) 高校順位

各学年の高校(時)5000m タイムでの私が把握出来た高校順位(省く外国籍、就職組選手)は**母校平均 38.0 位**、**優勝大学は 29.6 位**で母校より高校順位上位の選手が出場しました。

(2) 区間順位

母校平均 8.0 位、**優勝大学 3.3 位**

(3) 駅伝順位

母校平均 5.7 位、**優勝大学 1.5 位**

(4) 区間賞獲得選手数

母校 1 名 (1 区吉居選手)、優勝大学 3 名 (7 区岸本、9 区中村、10 区中倉選手)

※ 今年も応援しましたがこの戦況では“優勝”は夢のまた夢でしたと言えます。

2) 想定タイム、健闘タイム、駅伝タイム

※ 各タイムは小数点以下 1 桁目を四捨五入して秒表示しています。

(1) 想定タイム

母校 10 時間 54 分 44 秒、優勝大学 10 時間 51 分 33 秒で優勝大学は 191 秒 (1 人平均 19 秒) も速い。

(2) 健闘タイム

母校 ▲60 秒、優勝大学は 470 秒にてその差 530 秒 (=470 秒 - ▲60 秒) (1 人平均 53 秒) も健闘しています。

(3) 駅伝タイム

母校 10 時間 55 分 44 秒、優勝大学は 10 時間 43 分 42 秒でその差 12 分 2 秒 (722 秒) (1 人平均 72 秒) も健闘しています。

※ 駅伝タイム差 (722 秒) = 想定タイム差 (191 秒) + 健闘タイム差 (530 秒) です。

※ 既述の通り母校の健闘タイムは ▲60 秒ですが、想定タイムが 191 秒速い優勝大学は健闘タイム 470 秒で 1 人平均 47 秒も健闘しています。

健闘タイムの母校との差は 530 秒で優勝大学の選手は母校の選手と比べると 1 人平均 53 秒も健闘しました。

※ “優勝”大学の選手は本番でより力を発揮、健闘した、その要因は何か、母校選手との差は何か等を把握して、対応し 2 年後の第 100 回箱根駅伝の“優勝”を“優勝”を強く強く願っています。

以上

文 寫眞 岸 毅